

第2回春日山原始林授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤静男

- ◇開催日時 平成30年7月20日(金) 18時30分～20時30分
- ◇会場 次世代教員養成センター2号館 多目的ホール
- ◇参加者 講師：杉山拓次氏(春日山原始林を未来につなぐ会事務局長)
新宮(平城小)、吉田(済美小)、圓山(飛鳥小)、島(郡山西小)
中澤敦(きんき環境館)、谷垣・北村・中澤(奈良教育大学)

◇内容

1. ESDの学習理論

ESDのポイントは現代社会の相対化である。現代社会を「それ以外にはないと絶対化してしまうと、「よりよい社会づくり」も社会の「改善」で終わってしまう。空間軸や時間軸を取り入れることで現代社会を相対化することで、「ちがった形の社会」のビジョンを描くことができるだろう。

(1) ESDで育てたい見方・考え方(ESDの視点)

実態概念 自然環境や社会環境	多様性 色々ある方がいい	相互性 つながりを尊重	有限性・循環性 資源制約を考慮
規範概念 人は集団の意思決定・行動	公平性 世代内・世代間	連携性 非排他性・寛容性	責任性 協調性・リーダーシップ

- ※ ESDの視点は、取り扱う教材に依存する部分が多い。
- ※ 同じ教材を扱っていても、指導者の注力するポイントが変わることで、教材の取り扱い方も変わっていく。
島先生は「責任性」を重点ポイントと挙げているが、川上村の水源地の森の生態系に焦点を当てることで、「多様性」を学ぶことができるだろう。また、上流・中流・下流といったつながり、きれいな水と言った公平性も重要なポイントとなる。

(2) ESDで育てたい資質・能力

- ①クリティカル・シンキング(批判的思考力、代替案の思考力)
- ②システムズ・シンキング(総合的・構造的に考える力)
- ③長期的思考力(データに基づき、将来ビジョンを構想する力)
- ④コミュニケーション力(意見と聞く、意見を述べる力)
- ⑤協働的問題解決力(協調・リーダーシップ・粘り強くやり遂げる力)

- ※ ESDの資質・能力は、学習の進め方に依存する部分が多い。
- ※ 1週間分の給食の食べ残しを写真で見せたことで、自らの日常的な行動をクリティカルに見直すきっかけとなり、それが当事者意識を生んだのだろう。
- ※ 水を汚さないようにするにはどうしたらよいかと考えたところで、システムズ・シンキングの育成ができたのではないか。
- ※ 自分の行動を帰ることで、将来世代に美しい大和川を残すという発想が、長期的思考力を育てるの

ではないか。

※ 地域の高齢者に過去の大和川のことを聞き取り調査することで、現在の大和川を相対化することができ、それが行動化に結びつくのではないか。

(3) 育てたい持続可能な社会づくりに関わる価値観

- ①世代間の公正：将来世代の人たちへの配慮
- ②世代内の公正：途上国の人たち、貧困層の人たちへの配慮
- ③自然環境の保全を優先する
- ④互いの人権・文化を尊重する
- ⑤経済よりも幸福感を重視する。

2. SDGsについて

※持続可能な開発目標 (SDGs : Sustainable Development Goals)

目標 1：あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。

目標 2：飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。

目標 3：あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。

目標 4：すべての人に包括的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。

目標 5：ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。

目標 6：すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。

目標 7：すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。

目標 8：包括的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用 (ディーセント・ワーク) を促進する。

目標 9：強靱 (レジリエント) なインフラ構築、包括的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。

目標 10：各国内及び各国間の不平等を是正する。

目標 11：包括的で安全かつ強靱 (レジリエント) で持続可能な都市及び人間居住を実現する。

目標 12：持続可能な生産消費形態を確保する。

目標 13：気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。

目標 14：持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。

目標 15：陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する。

目標 16：持続可能な開発のための平和で包括的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包括的な制度を構築する。

目標 17：持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。

※島先生の実践では、目標 6 に関わるのではないかと目星を付け、目標 6 のターゲットを読み込む。

3. 春日山原始林に関して

目標 15 に関わるのではないかと予想し、ターゲットを読み込む。

また、ターゲットに関係のある事象を杉山氏に紹介していただく。

外来種：ナンキンハゼ、

ダンドボロギク（車の轍より）→小笠原との関連

下層植生が育たない → 雨による土壌流失 → 土砂災害

下層植生をシカが食べてしまう

シカは神鹿、ナギは神木として保護されている 文化的側面

過去のシカの頭数と、その頃の山の様子を、現在と比較する。

春日山は奈良町の水源だった。水の神様が祀られている。（高山神社など）

美しい水を利用した酒造りが奈良町の産業だった。（奈良晒も、川で晒していた）

川の水質、水量の変化をみる。川上町や能登川流域の農家は、春日山からの水を利用しているので、聞き取り調査するのもいい。その変化を構造的に捉えることが大切。

